

ニプロ救命救急用輸液セット

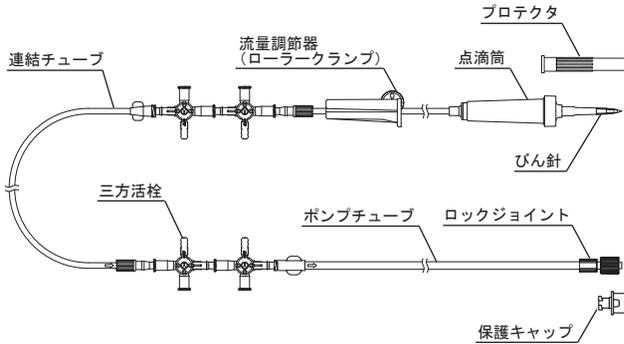
再使用禁止

【禁忌・禁止】

1. 再使用禁止

【形状・構造及び原理等】

1. 形状、構造



2. 材質

連結チューブ、ポンプチューブ	ポリ塩化ビニル
ロックジョイント	ポリカーボネート
三方活栓	ポリエチレン及びポリカーボネート
点滴筒	ポリプロピレン及びアクリロニトリル-ブタジエンスチレン共重合体
びん針	アクリロニトリル-ブタジエンスチレン共重合体
その他の各部品	ポリ塩化ビニル、ポリカーボネート、ポリエチレンテレフタレート

本品はポリ塩化ビニルに可塑剤（トリメリット酸トリ-2-エチルヘキシル）を使用している。

【使用目的又は効果】

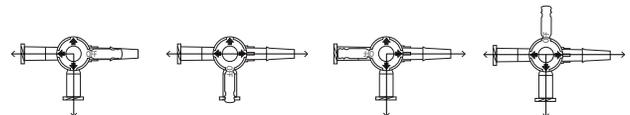
自然落下式、又は輸液ポンプを併用して輸液を注入するために用いる輸液セットである。

【使用方法等】

- エア針を必要とする輸液容器の場合、輸液容器の排出口を上にして、エア針を輸液容器のゴム栓の○印中央部に真っ直ぐいっばいの深さまで突き刺し、輸液容器内を平圧にします。その後、本品の流量調節器（ローラークランプ）を完全に閉じ、びん針を同様に真っ直ぐいっばいの深さまで突き刺します。
- エア針を必要としない輸液容器に接続する場合は、本品の流量調節器（ローラークランプ）を完全に閉じてから輸液容器の輸液排出口を上にして、びん針を輸液容器のゴム栓の○印中央部に、真っ直ぐいっばいの深さまで突き刺します。
- 本品を連結した輸液容器を吊るします。
- 点滴筒を指でゆっくり押しつぶし、点滴筒の1/2程度まで薬液を溜めます。
- ロックジョイントの保護キャップを外し、流量調節器（ローラークランプ）を緩めて輸液セット内のエア抜きを行ってください。また、静脈針等を接続する場合は確実に接続してからエア抜きを行ってください。エア抜きを行った後は、流量調節器（ローラークランプ）を完全に閉じます。
- 静脈針等を血管に穿刺して固定します。
- 流量調節器（ローラークランプ）を少しずつ緩めながら点滴状態を注視し、輸液速度を調節します。
点滴量：20滴≒1mL（1滴≒0.050mL）
- 使用後は感染防止に留意し、安全な方法で廃棄します。

＜使用方法等に関連する使用上の注意＞

- プロテクタを外す際、びん針針先がプロテクタに触れないよう注意してください。[刃先が変形し、穿刺しづらくなるおそれがあります。]
- 輸液容器にびん針を刺通する際、ゴム栓に真っ直ぐ、ゆっくり刺通し、輸液容器の壁面に針先が接触しないよう注意してください。[輸液容器の破損による液漏れ、異物混入、又はびん針針先が変形するおそれがあります。] また、同一箇所を繰り返して刺通しないでください。[セット内へのゴム片混入のおそれがあります。]
- 輸液容器のゴム栓（○印）にびん針等を刺通する際、斜めに刺通したり横方向に力をかけないよう注意してください。[針先の曲がりや破損のおそれがあります。]
- びん針を輸液容器に刺通する際、点滴筒下部のチューブに押し込むような力をかけないよう注意してください。[点滴筒とチューブの接合強度が弱まり、チューブ外れのおそれがあります。]
- プライミング時に接続部からの液漏れ、空気混入等の異常が認められた場合は使用しないでください。
- 接続部への輸液等の付着に注意してください。[接続部の緩み等のおそれがあります。]
- 流量調節器（ローラークランプ）使用時は、流量調節器（ローラークランプ）内でチューブがつぶれていないこと、ずれていないこと及び調節が確実にできることを確認してください。
- 流量調節器（ローラークランプ）に過剰な負荷をかけないように注意してください。[ローラー外れ、流量調節不良のおそれがあります。]
- 三方活栓は以下の事項を順守してください。
 - 三方活栓に接続する注射筒やコネクタ等が外れないようしっかり接続してください。
 - 三方活栓から薬液を混注する際は、空気の流入に注意してください。
 - 三方活栓のコックに対し、引き抜く方向に過度な負荷をかけないよう注意してください。
 - コックの向きと流路は下記のとおりです。



- ポンピング操作等の急激な注入、吸引操作を行う場合は、混注部に接続されている他の注入ラインを閉塞する等の処理を行ってください。[他のラインへの逆流、又は他のラインからの薬液の過大注入のおそれがあります。]
- 注射筒を接続したままの状態では放置しないでください。[他の混注部から薬液を投与する際、注射筒内への薬液逆流のおそれがあります。]
- 輸液ポンプを使用する場合
 - 適合機種を確認の上、輸液ポンプの使用法、使用上の注意に従って使用してください。なお、FP-1200シリーズ、FP-Nシリーズの輸液ポンプを適用することが可能です。
(1)FP-1200シリーズを使用する際、流量調節器（ローラークランプ）が輸液ポンプの上流に付いている場合は、輸液ポンプの閉塞警報が鳴らないことがあるため必ず開放してください。
 - 輸液ポンプに装着する際には、チューブに傷をつけないよう取扱には十分に注意してください。また、チューブが曲がったり、伸びた状態で装着しないでください。[装着が不十分な場合、輸液量の精度、気泡検知の誤警報及び閉塞検知圧に影響します。]
 - 気泡検出機能が付いていない輸液ポンプと併用する際は、輸液容器の輸液が無くなる前に輸液を中止してください。[患者に空気が流入するおそれがあります。]
 - 閉塞検出機能が付いていない輸液ポンプと併用すると、輸液チューブが閉塞した際に稼働が停止せず、接続部の外れ、破損のおそれがあるので注意してください。

【使用上の注意】

1. 重要な基本的注意

- 1) 薬液は室温になじませてから使用すること。点滴筒内が泡立つようなプライミング操作を行わないこと。併用する医薬品及び医療機器の添付文書に指定がない場合は、点滴筒の1/2程度まで薬液を溜め、液面低下に注意すること。〔チューブ内での空気の発生、空気混入のおそれがある。〕
- 2) 点滴筒のポンピング後、点滴筒が白色に曇った状態になることがあるが、点滴筒の素材であるポリプロピレンの特性に起因する現象であり、性能に問題はない。
- 3) プライミング後、点滴筒を横にしたり、傾けたりしないこと。また、輸液容器を交換する際や輸液中に点滴筒内を空にしないこと。〔チューブ内に空気が混入し、輸液が流れにくくなるおそれがある。〕
- 4) プライミング後は直ちに輸液を開始すること。〔輸液汚染のおそれがある。〕
- 5) 輸液開始時には、点滴の落下状況、点滴筒内の液面の高さや、穿刺部位等、輸液状況を観察すること。
- 6) 使用中は本品の破損、接続部の緩み、空気混入、液漏れ及び詰まり等について、定期的に確認すること。
- 7) チューブ等が身体の下等に挟まれないように注意すること。〔チューブ等の折れ、閉塞、破損のおそれがある。〕
- 8) チューブを鉗子等でつまんで傷をつけないように、さらに注射針の先端、ハサミ等の鋭利なもので傷をつけないように注意すること。〔液漏れ、空気混入、破損のおそれがある。〕
- 9) チューブと硬質部材（コネクタ等）との接合部付近で流量調節器（ローラークランプ）を操作しないこと。〔チューブが流量調節器（ローラークランプ）に噛みこまれ、破損するおそれがある。〕
- 10) インジェクタ等を用いた造影剤等の高圧注入は行わないこと。〔液漏れ、又は破損するおそれがある。〕
- 11) 本品は合成樹脂製品のため、温度が低下するにつれて強度が低下することから取扱いには注意すること。〔点滴筒等の破損のおそれがある。〕
- 12) ポリカーボネート製の部品は以下の事項に注意すること。
 - (1) 脂肪乳剤及び脂肪乳剤を含む医薬品、ヒマシ油等の油性成分、界面活性剤又はアルコール等の溶解補助剤等を含む医薬品を投与する場合及びアルコールを含む消毒剤を使用する場合は、ひび割れに注意すること。〔薬液によりひび割れが生じ、血液及び薬液漏れ、空気混入等のおそれがある。特に、全身麻酔剤、昇圧剤、抗悪性腫瘍剤及び免疫抑制剤等の投与では、必要な投与量が確保されず患者への重篤な影響が生じるおそれがある。なお、ライン交換時の締め直し、過度な締め付け及び増し締め等は、ひび割れの発生を助長する要因となる。〕
 - (2) 本品の接続部等にひび割れが確認された場合は、直ちに新しい製品と交換すること。

2. 不具合・有害事象

- 1) その他の不具合
 - (1) 破損
 - (2) 漏れ
 - (3) 緩み
 - (4) 空気混入

【保管方法及び有効期間等】

1. 保管方法

水ぬれに注意し、直射日光及び高温多湿を避けて保管すること。

2. 有効期間

包装の使用期限欄を参照のこと。

有効期間：滅菌後3年（自己認証による）

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売（お問い合わせ先）

ニプロ株式会社

電話番号：06-6372-2331（代表）

製造

ニプロ株式会社



 **NIPRO**

ニプロ株式会社